

<会運営について>

# 令和4年度 歯科衛生士養成校卒業生の実態調査

大阪府歯科衛生士会では、毎年「歯科衛生士勤務実態調査」を行っています。  
今年度は、大阪府内にある歯科衛生士養成校15校にご協力いただき、卒業生の実態調査を実施しましたので報告いたします。

令和4年7月19日に大阪府内の卒業生のいる歯科衛生士養成校15校(昼夜間部がある学校はそれぞれを集計)にアンケート用紙を送付し、卒業生の実態について調査したところ回収率は100%でした。

## <結果>

### 1. 卒業生の進路について

卒業生883名の進路の内訳は、就業者839名(95%)、進学者4名(0.5%)未就業者および不明者は合わせて約5%でした(図1)。また、歯科医療に従事した832名のうち787名(93%)は歯科診療所での就業でした。

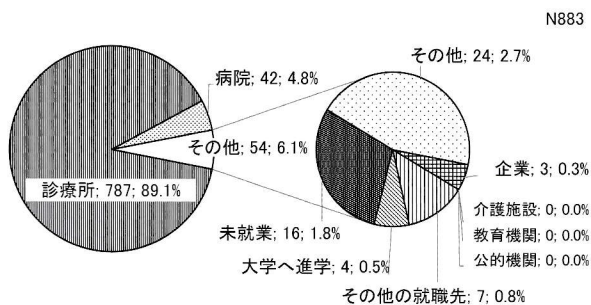


図1 卒業生の進路

### 2. 有効求人倍率(平均求人件数)について

過去3年間における各養成校の求人総件数と有効求人倍率の平均値を表に示します(表1)。令和2年に低下したものの翌年には回復傾向を認めました。

表1 歯科衛生士平均求人倍率および件数

	令和元年	令和2年	令和3年
求人件数(総件数)	12,500	10,650	11,671
平均求人倍率(倍)	13.1	11.2	11.6

※令和元年度は14校のみ

### 3. 卒業生が重要視する勤務条件

卒業生が就職活動をする際に重要視する項目は、賃金・就業時間・社会保険の有無等の雇用条件に並んで、職場の人間関係も重要な項目として入っていました(図2)。

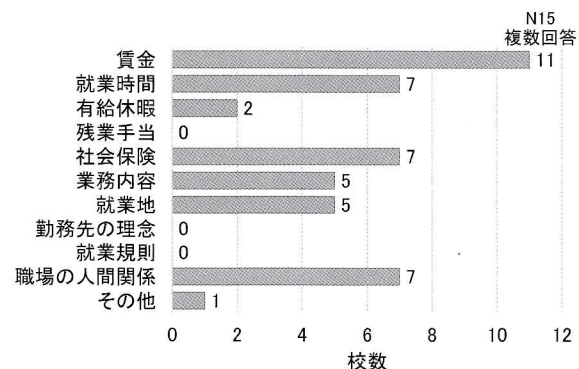


図2 就職活動において重要視する項目

### 4. 勤務先の主な変更理由

卒後1年以内に勤務先を変更した者がいると回答したのは9校(56名)でした。勤務先の主な変更理由は、職場の人間関係と業務内容(本来の歯科衛生士の業務ができない3名含)が最も多かったものの、専門職として自信喪失もありました(図3)。

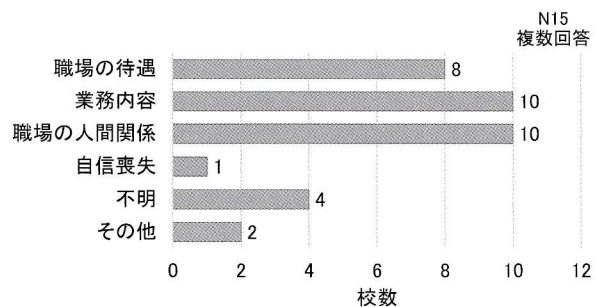


図3 卒業生の勤務先を変更する理由

## 5. 卒業生に受講させたい研修内容

教員が卒業生に受講させたい研修内容を示します(図4)。歯周治療や摂食嚥下リハビリテーションなど手技や知識に関する項目が多い結果となりました。

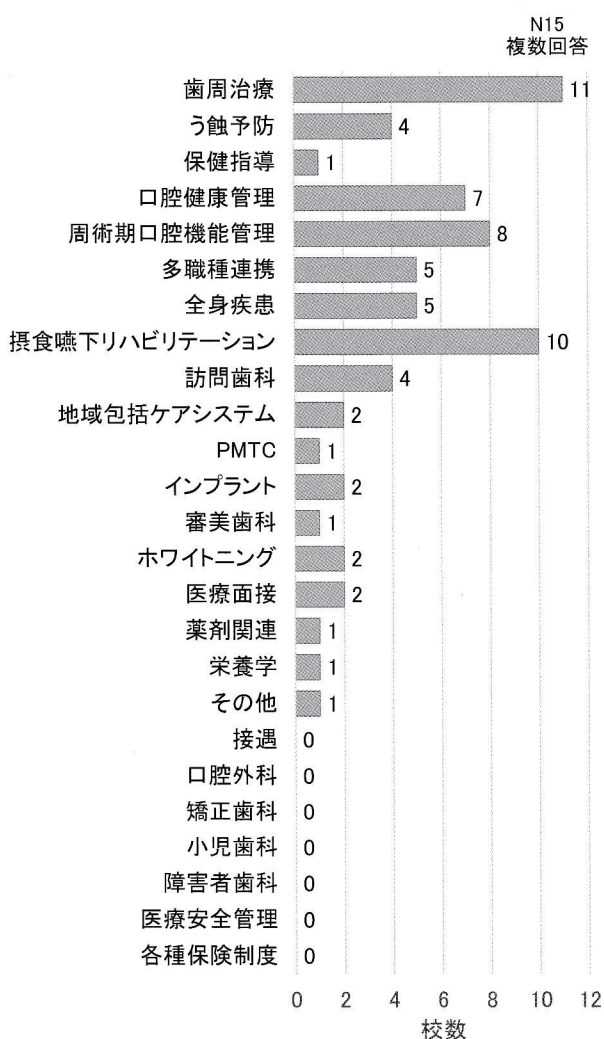


図4 教員が卒業生に受講させたい研修

## 6. 卒業生からの相談内容

教員が卒業生から相談をうける内容には、人間関係や職場の待遇、業務量および本来の歯科衛生士業務ができないなどの業務の内容、さらなるスキルアップや専門職としての自身喪失があげられていました。

## 7. 歯科衛生士会事業の活用について

在校生および卒業生が当会事業(学術研修会等)を活用していると回答したのは10校で、5校は不明でした。しかし、すべての養成校において当会事業の情報を必要に応じて教員から在校生および卒業生へ案内していただいているとの回答が得られました。

## 8. 新型コロナウイルス感染症拡大の影響

### ●校内実習について

- ・少人数制での分割実習
- ・各チェアーや実習机にアクリル板の設置
- ・マネキンでの実習
- ・感染予防対策の徹底 など

### ●校外臨地実習について

- ・中止の実習に関しては校内実習に変更
- ・実習先と感染予防対策について連絡調整
- ・小学校での歯みがき指導は歯垢染色をせず、紙で作った模型をみながく練習に変更

### ●校内講義等について

- ・リモート講義および分割授業、ビデオ学習
- ・黙食の徹底、個人の体調管理チェックシートを作成し提出を求める など

### <まとめ>

卒業生の進路は歯科診療所が約9割を占めました。有効求人倍率については厚生労働省等で公開されているものと比較すると非常に高い職種であることが分かります。勤務条件には「賃金」や「就業時間」「社会保険の有無」に加え「職場の人間関係」が重要視されており、「職場の人間関係」は勤務先変更の主な理由にも入っていました。卒業生からの相談内容では、「人間関係」に続き「職場の待遇」「業務内容・業務量」が上位を占めていました。実際に就労すると、職場での人間関係の悩みや日々の業務についての疑問や不安を抱えたままになることが多く、勤務先の変更や離職の原因になっている可能性が示唆されました。当会としては、早期離職を防止するためのサポート体制を整える必要を考えます。また、新人歯科衛生士を指導する立場の先輩歯科衛生士を対象とした「指導者研修」も今後の課題としての必要性を感じました。

これらの結果を踏まえ、当会は今後も歯科衛生士の様々な課題に取り組み、より良い歯科衛生士業務の開拓に寄与するため、歯科衛生士養成校とのさらなる連携を図っていきたくと考えております。

最後になりましたが、ご協力いただきました歯科衛生士養成校の先生方、皆様に厚くお礼を申し上げます。